

地域の皆さまへの説明会 2018年1月
広報紙(ニュースアトム)等で事前に頂いたご質問への回答

【ご質問】

原子力発電所が全号機停止していても、電気は足りている。
原子力発電は不要なのではないか。

【ご回答】

日本では、生活に欠かせないエネルギーの自給率はわずか数%しかありません。東日本大震災以降、当社の発電電力量の約9割は火力発電が担っており、効率の悪い経年火力発電所への依存度が高まっています。電力の安定供給や温室効果ガスの排出削減、経済性(S+3E)の観点からも、安定的で安価なベースロード電源は不可欠であると考えております。

特に、2015年12月には、COP21において京都議定書以来18年ぶりとなる新たな国際枠組み「パリ協定」が採択されました。すべての主要排出国が気候変動対策に取り組むことを約束する、公平かつ実効的な法的枠組みのもとで、日本は、2030年度に温室効果ガスを26%削減するという約束草案を着実に推進していくこととなっております。

2015年4月に国が策定した「エネルギー基本計画」では、原子力発電が重要なベースロード電源と位置づけられており、当社としても、安全の確保を大前提に、電気を安定供給していくための方策・手段の一つとして低炭素の準国産エネルギー源である原子力発電というオプションを確保していくべきと考えております。

【ご質問】

免震重要棟、荒浜側防潮堤、3号炉原子炉建屋内緊急時対策所は
どういった経緯、理由で自主設備としたのですか。

【ご回答】

免震重要棟に係る経緯等は説明資料（スライド33）の通りです。

荒浜側防潮堤、3号炉原子炉建屋内緊急時対策所に係る経緯等は下記の通りです。

荒浜側防潮堤は、東北地方太平洋沖地震による災害状況等を踏まえ、現在の新規制基準が施行される前に計画し、建設に着手しています。

その後、柏崎刈羽原子力発電所6/7号炉の審査の過程において、橋、道路、鉄道などの土木構造物に用いる一般的な規格・基準では対象としていない深く、古い砂層まで含めて保守的に評価することになりました。

評価の結果、杭の支持性能が不足する見通しを得たことから、3号炉原子炉建屋内に計画していた緊急時対策所を5号炉原子炉建屋内に設置する方針変更をすることになりました。

以上のことから、免震重要棟、荒浜側防潮堤、3号炉原子炉建屋緊急時対策所は、柏崎刈羽原子力発電所6、7号機の申請対象外設備としています。

【ご質問】

諸外国から、発電所がミサイルやテロの標的にされたら、どのように対応するのですか？

【ご回答】

原子力発電所においては、原子炉等規制法に基づき、早期発見、早期通報、侵入者遅延の基本方針に従って適切な防護措置を講じています。これらについては、原子力規制委員会ならびに治安当局からの指導・助言を基に、実働訓練等を通じて検証するとともに、連携強化を図っています。また、ミサイルによる攻撃に対しては国レベルの安全保障の観点からの対応が必要なものとなりますが、当社としても一層の態勢強化を継続してまいります。詳細については、セキュリティに関することであり、回答を差し控えさせていただきます。

【ご意見】

この説明会は、再稼働をするために、「住民への説明会を実施しました」という実績作りのためだけに実施しているとしか思えない。

【ご回答】

新規制基準の適合性審査の状況や安全対策の取り組み状況を定期的に地域の皆さまに対して情報発信していくことが必要と考えています。今回は、柏崎刈羽原子力発電所6、7号機の安全対策への取り組みと原子炉設置変更許可申請における審査の結果等をご説明させていただいたものです。

【ご意見】

東京電力は、福島県民への償いをどのように考えているのか。

【ご回答】

弊社福島第一、第二原子力発電所事故により、新潟県へ避難されている方々を含め、広く社会の皆さまに大変なご迷惑とご心配をお掛けしていることについて、改めて、心からお詫び申し上げます。

弊社は、原子力損害賠償制度の枠組みの下で、原子力損害賠償紛争審査会による中間指針等を踏まえ、被害を受けられた方々への迅速かつ公正な賠償金のお支払に取り組んでいるところです。

また、中間指針等に明示されていない損害項目についても、弊社事故との相当因果関係が認められる損害については、個別のご事情を丁寧にお伺いし、適切にお支払いしております。

引き続き、新々・総合特別事業計画に掲げた「3つの誓い」にしたがい、迅速かつきめ細やかな賠償に取り組むとともに、被害を受けられた方々に寄り添い、最後のお一人まで賠償を貫徹してまいります。

【ご質問】

新潟県による三つの検証が終わるまで、再稼働はするべきではないのではないか。

【ご回答】

現時点で、再稼働の時期について申し上げる状況にはありません。発電所の再稼働につきましては、安全最優先かつ地元のご理解が不可欠だと考えております。その観点からも知事の掲げる「3つの検証」が何よりも重要と考えており、当社は引き続き全力で協力してまいります。

【ご質問】

東京電力には、「絶対に事故を起こさない」という自信がどれほどあるのか。

【ご回答】

福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所では「事故を防ぐ」こと、そして「止める」「冷やす」「閉じ込める」という深層防護の考え方をあらためて追求し、様々な安全対策を模索しました。

規制委員会による厳格な審査を通じて様々なご指摘をいただくことで、安全性の向上を図ることが出来たと考えています。

しかしながら、安全対策に終わりではなく、今後もさらなる安全性の向上を追求してまいります。

【ご質問】

事故が起きたら、「想定外でした」では済まされない。
最後まで逃げずに対応する覚悟はあるのか。

【ご回答】

事故を起こした当事者として、福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないと固く誓い、福島第一原子力発電所の廃炉をやり遂げることと、柏崎刈羽原子力発電所の終わりなき安全性向上を、両立します。

我々は引き続き、終わりなき原子力安全の向上に責任と覚悟を持って取り組んでまいります。

【ご意見】

全戸訪問で謝罪するなら、アルバイトを使うのではなく、責任ある立場の人間が訪問すべきではないか。

不在でも、せめて名刺くらいは置いていくべきだと思う。

【ご回答】

各戸訪問は、地域の方々の声やご質問等について丁寧にお話をさせていただくとともに、様々なご意見等をお伺いさせていただくことを目的に実施しているものであり、発電所員はじめ本社や新潟本部などの社員が直接訪問させていただきます。なお、新潟本社代表や発電所長等も、機会を捉えて訪問させていただきます。

不在時の扱いなど、各戸訪問のやり方については、今後も改善、工夫を重ねながら一人でも多くの皆さまとの対話を通じて、様々なご意見をいただけるよう、努めてまいります。

【ご要望】

1月に発生した三条での電車の立ち往生を考えると、冬の避難は機能しないのではないか。積雪時でも避難できるように、検討してください。

【ご回答】

当社としては、福島第一原子力発電所事故の反省を踏まえて様々な安全対策を進めているところでございますが、万一の事故発生時の対応については、原子力事業者としてできる限りご協力する所存であり、今後、自治体や地域の皆さまとご相談しながら具体的な方策について検討してまいります。

【ご意見】

柏崎は発電所が動かないと活気がありません。動かして、柏崎を景気づけてください。

【ご回答】

昭和44年の誘致決議以来、約50年、これまで地元の方々からご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。発電所の関係でご心配をおかけいたしますこと、改めてお詫び申し上げます。当社は、安全を最優先・大前提として審査に的確に対応していくとともに、立地地域の皆さまの安全に対する懸念に関して真摯に説明を尽くしてまいります。柏崎刈羽原子力発電所が、この地にあってよかったと感じていただけるように、ご理解を得ながら、取組を進めてまいります。

以 上